

船来山古墳群の時代に迫る！歴史文化探訪セミナーを開催しました

12月14日（土）に、歴史文化探訪セミナーを開催しました。



当日は、長瀬治義先生（可児市教育委員会）の「船来山古墳群の時代」の講演がありました。

51名の参加者が、「船来山古墳群の時代」に迫りました。



講演では、船来山古墳群の中でも一番たくさん古墳が造られた、古墳時代後期の社会についてお話しいただきました。また、企画展を見学しながら、詳しくお話しいただきました。

当時の社会がどんなだったかを体感するために、現存する最古の戸籍「美濃国加茂郡半布里戸籍」（702年、1119人の記録が現存）の記録から、船来山古墳群の古墳時代後期（6、7世紀）の人々について、人口が何人だったかを、皆で計算しました。

現在、船来山古墳群で見つかった古墳291基のうち、この古墳時代後期の古墳は267基と考えられています。この数字に指数20.7をかけた5,526人が当時の船来山古墳群を造った人々の数と考えられるという結果が出ました。

船来山古墳群には1,000基以上の古墳があるのではないかとありますが、これが本当だとすれば、1000基×20.7で2万7000人の人々となります。この数字は、船来山古墳群の素晴らしさと今後の可能性を表していると考えられます。参加者は、実際に計算して体感したことで、大変良い勉強となりました。